

The Lions News

DISTRICT 330-A LIONS CLUBS INTERNATIONAL

<http://www.lions330-a.org/>



2011 For the future



表紙画協力:口と足で描く芸術家協会

Contents

年次大会・河合ガバナー1年の軌跡・大石ガバナーエレクトインタビュー・ライオンズのPRを考える
東京LC例会訪問レポート・メンバークローズアップ・クラブアクティビティ・トピックス他

特集

東日本大震災 支援活動レポート



地区ニュース最終号に寄せて

第57回年次大会も無事終了し、季節が新緑から初夏の佇まいを見せ始める頃、(2010～11年度)地区ニュース最終号が皆様のお手元に届くこととなります。

東日本大震災発生により、ライオンズクラブにとりまして激動の1年となりましたが、PR・情報委員会が担当する地区ニュースは若い委員長を中心に、メンバーの皆様方にご理解をいただけるよう、各号においてニーズにあった内容の充実に努力されてこられました。メンバーの皆様方にその新しい風を感じ取っていただければ幸いに存じます。

「和でつなぐ奉仕の輪」が次期に向けても更に大きな架け橋となり、ライオンズクラブの明るく堅実な未来が構築されますよう切望しております。

1年間のご協力に改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

330-A地区ガバナー 河合悦子

河合悦子地区ガバナー 1年の軌跡

「行動と改革への挑戦 ～主役はあなた、ドラマチック330A～」をスローガンに掲げた、地区初の女性ガバナーの活躍を振り返る



2010年7月2日

シドニー国際大会で河合ガバナーが誕生



2010年7月26日

第一回キャビネット会議で議長を務める



2010年8月3日

LCIF緊急援助交付金を北区ほか2区に贈呈



2010年9月4日

YE派遣生帰国報告会でYE生を激励

ライオンズクラブ国際協会 330-A地区 第57回 年次大会



河合悦子 地区ガバナー



L野村栄樹大会委員長



早稲田大学第14代総長 奥島孝康先生



左:次期第1副地区ガバナーL阿久津隆文
右:次期第2副地区ガバナーL鈴木 定光



ガバナーズアワード表彰風景



ガバナーエレクト L大石誠

代議員会 (10:00～13:10)

4月23日(土)、東京プリンスホテルに於いて今期河合キャビネットの集大成となる第57回年次大会が開催された。

代議員会では、午前中に次期役員候補者の紹介及び所信表明が行われ、各候補者が一名のため信任投票の結果、地区ガバナーエレクトにL大石誠(数寄屋橋LC)、次期第1副地区ガバナーにL阿久津隆文(赤坂LC)、次期第2副地区ガバナーにL鈴木定光(江東南LC)がそれぞれ選出された。

また、2013-2014年度国際第2副会長候補者としてL山田寛紘(334-B地区 美濃加茂LC)の推薦が決議された。

分科会 (11:00～12:00)

今期は各分科会のシンポジウムテーマに加えて、3月11日に発生した未曾有の大災害を受けて、全ての分科会共通の特別メインテーマ「東日本大震災への今後の対応」が設定された。

政策・計画ほか10ヶ所の分科会会場に分かれての分科会では、活発なディスカッションが行われ、代議員会再開後、各分科会の決議事項、報告がなされた。

式典 (14:00～17:30)

大会式典は今期の活動を約14分間の映像作品にまとめた「河合キャビネット一年の歩み」の発表で始まり、続いて、L野村栄樹大会委員長の挨拶をはじめ来賓挨拶等が行われた後、代議員会決議報告がなされ、年次大会記念事業の発表並びに目録贈呈が行われた。大会記念講演では、奥島孝康先生(早稲田大学第14代総長)が「スポーツと学校教育」について講演され、その後、山浦国際理事により国際会長アワードの授与が行われ、ガバナーズアワードの表彰が河合ガバナーによって行われた。

そして大会のクライマックスはガバナーエレクトL大石誠の入場セレモニーで第57回年次大会は盛況のうちに幕を下ろした。



2010年9月20日

第9回ピボ・ユニバーサル駅伝で参加者と交流



2010年9月30日

蒼天・新世紀LC合同結成会でメンバーにバッジ授与



2010年10月

奉仕月間で各地のアクティビティを40ヶ所以上も訪問



2010年11月15日

国際会長公式訪問でシド・L・スクラッグスIII国際会長夫妻と



2010年11月19日

OSEALフォーラム(台湾・高雄)開会式



2010年11月19日

ガバナーを囲む会には約200名のメンバーが参加した



2011年2月11日

三軒茶屋LC20周年記念例会を訪問



2011年3月11日

フォーラム&チャリティコンサート会場にて



2011年4月14日

震災被災地に救援物資と義援金を持参



2011年4月23日

第57回年次大会で国際会長アワードを受賞

東日本大震災

330-A地区 支援活動レポート



海外クラブからの支援

姉妹提携クラブからの義援金

11R3Zでは、3月23日(水)河合ガバナーからの「救援物資提供のお願い」を受け、対応を検討した結果、各クラブから物資提供を受けて現地に届けると時間が掛かるため、各クラブからの提供資金で救援物資を購入し、現地に届けることになった。

ゾーン内の各クラブがそれぞれ10万円ずつ拠出する中、早稲田LCは40万円の協力をを行ったのだが、これには理由がある。

早稲田LCは1974年に台北市の永楽LCと姉妹提携を結び、永きに渡り親交を温めてきたが、今回の東日本大震災に対して、永楽LCから義援金150万円が送られてきたのだ。

直接届けることの大切さ

さて、支援物資の搬入先である332-D地区キャビネット幹事L大河原より不足物資の状況を予め聞き、大人用紙おむつ、下着、家庭用医薬品、缶詰等の保存食品を調達することにした。

震災の影響で品薄の為に入手が困難な物品もあったが、3月30日(水)に全てを調達し、4月1日(金)にL須藤(早稲田LC)の会社の2tトラックを借りて福島県猪苗代町に向かった。

救援物資の受け入れ場所となる猪苗代町農村改善センターにAM9:30頃に現地に到着したのだが、直接物資を運んできたのは我々が初めてとのことで、332-D地区山口ガバナー、鈴木副町長ほか多くの皆様から感謝の言葉を頂いた。

再び被災地へ

早稲田LCでは4月1日に現地にて得た情報を元に、永楽LCの義援金全額を使い、幼稚園児、小学生、中学生向け文具を購入。再び4月14日に猪苗代町に支援物資を持参した。

物資の目録には、被災地に永楽LCの好意を伝えるために、贈呈：台北市永楽LC、協力：早稲田LCと記入した。

今回は必要な物資を予め現地に確認し、直接届けることで適切、且つ、迅速な対応が出来た。しかし、原発の状況も予断を許さない上、現地の復旧には時間が掛かると思われるため、早稲田LCでは今後更なる支援活動について検討している。



歓声で迎えられた救援物資

河合ガバナーが支援を即断

東日本を襲った未曾有の大震災の翌日3月12日、L坂本(江戸川LC)は宮城県名取市行きを決断、河合ガバナーに電話で被災地支援への思いを伝えたと、河合ガバナーは即座に賛同すると共に、キャビネット副幹事に対して古着等の提供を依頼、3月14日のキャビネット定例会に物資を持ち寄ることになった。

また、引越シーズン等と重なり車両の手配がつかない中、東京いすゞ自動車(株)様より全面的なご協力を頂き、ガソリン不足にも関わらず、燃料を満タンにしたトラックを無償で貸与頂いた。

さらに、被災地からの要望を受けたL坂本は、出発日当日の3月14日AM7:30頃、L石井元地区ガバナーに大人用紙おむつの提供を依頼したところ、なんとPM3:30にダンボール15箱(1,000人分の大人用紙おむつ)がL坂本の元に届けられた。

ライオンズメンバーの絆を実感

その後、定例会で集まった物資が到着し、L坂本が江戸川地区で集めた2t車1台分の物資も無事積み込んだが、ここで問題が発生した。被災地に物資を運搬するためには警察署から緊急支援車両であることの証明書を発行してもらう必要があるのだ。

ところが警察署の受付時間はPM5:00迄である。とても間に合わないと思ったL坂本はL阿久津次期第1副地区ガバナーに相談したところ、L阿久津次期第1副地区ガバナーはすぐさま赤坂警察署と交渉し、特別に時間外受付の了解をとりつけた。

こうしてPM9:00頃、L坂本はドライバーとして自ら名乗りを上げたL田口(みやこLC)と共に被災地に向けて出発した。

東北自動車道は福島県に入ると路面のあちこちに凸凹や亀裂が入っており、場所によっては一車線制限の区間もあり、震災による被害の甚大さを早々に思い知るようになった。

最も支援が必要な場所へ

路面状態が悪い中、細心の注意をはらいながらの夜間走行はさすがに疲れる。AM3:00頃にサービスエリアで3時間程仮眠をとった後、目的地の名取市にある重度障害者施設に到着した。

すると施設の方から、物資が一番不足しているのは多賀城市だと聞き、急遽、多賀城市役所へと向かうことにした。

急ぎトラックを走らせたが、途中で通行止めに遭い進めなくなった。一応その場の復旧担当者に交渉したものの、道路に散乱する瓦礫を見て、やむなく引き返そうと諦めかけた時、3台のブルドーザーがL坂本らのために道路の瓦礫をどかしてくれたのだ。

こうして多賀城市役所に震災後はじめての支援物資がライオンズクラブによって届けられ、市役所前で物資を心待ちにしていた皆様からはトラックを見た途端に大きな歓声が上がった。

物資の搬入を終えて、必要の無い物が有れば持ち帰りますと問いかけたところ「何一つ要らない物は有りません。有難うございます」という言葉が印象的だった。



ライオンズクラブの強い絆

ポリタンクが手に入らない

東日本大震災では、東北三県だけでなく茨城県や千葉県にも大きな被害が出ており、世田谷LCが潮来LC(333-E地区)と合同で実施している、青少年食育アクティビティ(田植え・稲刈り)で一昨年訪れている茨城県潮来地域にも激しい液状化現象が起き、甚大な被害が発生している。

特に上下水道の被害が深刻で、3月17日に潮来LC幹事L兼平から連絡を受け、給水車が来ても水を配分するためのポリタンクが手に入らないので助けて欲しいとの要請を受けた。

早速、都内のホームセンター等で探したが、買いだめによって売り切れ状態。その時、たまたま九州に滞在していたL桂会長と連絡がつき、運良く九州で20リットルのポリタンク76個を買い付けて3月24日夜にL桂会長とL進藤幹事が潮来まで持参した。

その際、予想以上に液状化の被害を受けた現地の状況に、さらなる支援の必要性を痛感した。

子クラブと共にさらなる支援へ

そこで次なる支援として、現在も水廻りの衛生面で不安があることから、潮来LC、世田谷LCおよび世田谷LC子クラブの三軒茶屋LCの3クラブ合同で消毒薬を約5,000本購入して潮来・神栖地域の小中学校に配布することにした。

4月14日朝、数台の車に分乗して現地に向かい、神栖LCに約1,600本の消毒薬の贈呈を行い、残りの約3,400本については5つのグループに分かれ、各班3~5つの学校をまわって消毒薬を配布したが、どの学校でも消毒薬は大変喜ばれた。

配布途中の潮来市内は電信柱が傾き、あちこちに地割れがあり、潮来高校では校舎が使えない等、甚大な被害を垣間見た。

PM3:00からは液状化の激しかった日の出地区にある日の出中学校体育館にて潮来LC協力の下でジャズ演奏家日野皓正氏のライブが行われ、来場者768名が復興への決意を新たにした。



現地を訪問しないとわからないこと

想像をはるかに超える悲惨な状況

L茅島(江戸川東LC)他数名のメンバーは、自クラブの物資に加えて、緊急災害対策委員会L高橋委員長からのマスク64,000枚、浜松LCからのマスク184,000枚、西荻北商店街やみやこLC他からの支援物資を満載したトラックで被災地に出発した。

3月26日に一関インター付近で諸々の物資、次に盛岡の集積所にマスクを届けた後、塩釜の集積所にマスクと衣類、そして猪苗代の集積所にマスクと江戸川東LCの物資を運ぶ行程だ。

盛岡や猪苗代の集積場は、被災地からかなり離れたところにあるため、ほとんど震災の爪痕は感じられなかった。

ところが塩釜の港周辺は、かるうじて残った建物も大きく歪み町中が破壊されて瓦礫の山と化しており、正に衝撃的な光景だ。

その地域に集積所であるL志賀重信332-C地区元ガバナーの経営する石材店が立地しており、石材店の建物は残っていたものの、各階ともに津波によって破壊されていた。

トラックが到着すると、L志賀元ガバナーが「ありがとうございます」と深く頭を下げながら出迎えて頂き、町長もわざわざ我々のために挨拶に来て下さったのだが、あまりの惨状にお見舞いの言葉が見つからない。そして、支援物資を手渡して集積所を出発すると、今集まった人達がすぐに瓦礫の片付け作業を再開する姿に感銘を受け、支援する側が反対に勇気をもらった。

とにかく支援すること

その後、移動中の車内から、遺体と思われる黒いビニールの袋が漁港に山のように積んであるショッキングな光景を見ながら、報道では震災の実態を理解できないと改めて実感した。

あくまで主観だが、現地ではなんでも必要なのではないかと思う。確かに足りているものと不足しているものはあると思うが、先ず集まった物資を配布するやり方に問題があるように感じる。

ライオンズは「余っている」という情報で、支援をストップするのではなく、兎に角支援物資を山積みにしてあげることで、被災した皆様に安心感を与えることができるのではないだろうか。



330-A地区の救援物資運搬・労役奉仕

震災発生後、河合悦子地区ガバナーをはじめとして、330-A地区の多くのクラブ、メンバー、有志らが各被災地に救援物資を送り届けており、この地区ニュースで紹介した奉仕活動は、誌面の関係上ごく一部である。その他の活動については地区ホームページの「東日本大震災・被災者支援活動特集ページ」に詳細レポートが掲載されているので、是非とも参照されたい。

主な救援物資運搬・労役奉仕活動
※ 5月7日時点の330-A地区ホームページより

3月23日	新橋LC	
3月25・26日	ワンハンドレッドLC	
3月25・26日	江戸川LC	
3月30日	L坂本他有志メンバー	
3月31日	3R・3リジョン合同	
4月 1日	早稲田LC	
4月 5日	L上野他有志メンバー	
4月12日	神楽坂LC	
4月14～16日	河合ガバナー他有志メンバー	
4月16～18日	5R2Z合同	
4月19日	目白LC	その他



最も支援が遅れている島へ

おいしい朝食を届けたい

ウエストLCのメンバー有志、L高橋長生、L五十嵐昌平、L村上隆信、L高橋孝子の4名は支援物資を調達し、PM10:00に出来上がった弁当340食を持って、4月2日PM11:00に東京を出発し、一路宮城県気仙沼市大島町に向かった。

途中、上河内SAで石巻に向かうL平林茂(センチュリーLC)経済評論家萩原博子先生と合流し一休み。当日AM10:00より新宿駅西口での街頭募金に参加し、この時間かなりの睡魔に襲われていたが、「弁当を朝食に」と思い、急ぎ気仙沼港に向かった。

気仙沼港の200m手前辺りから街の風景が一変し、これが大津波に襲われた街の姿かと全員が絶句した。

港に着くと市の職員に迎えられ、AM8:30発の「ひまわり号」に乗船した。船長の菅原進氏(69)は、「船賃は100円～400円だ。但しお金のない人は無料でいい」と言う。しかも、「あんた達は島に支援物資を届けてくれたから船賃はいらないよ」と温かく声をかけてくれた。自分が過酷な環境にさらされた時も、相手を気遣う精神に、奉仕の光を垣間見た瞬間だった。

報道に左右されず継続支援を

若者達の応援で気仙沼市立大島小学校に物資を運び、体育館に避難している皆さんから現状をお聞きすると、未だにパイプラインが全滅で水・電気が全くない生活。「今時プールの水を飲んでいる所がありますか」とテレビで惨状を訴えた島でもある。

「物資はもう要らない」「お金が必要」等と報道されるが、それは間違いだ。大島の島民3,000人の食事調達は困難を極めており、各被災地では今も数多くの人々が苦しんでいる現実がある。今こそライオンズの力を結束し、継続的な支援を行うべきだ。



ライオンズクラブの組織的支援

迅速な意志決定

東日本大震災が起きた翌々日の3月13日(日)午後、未だに災害の全貌が見えてこない段階で、日本ライオンズとして早急に且つ組織的に被災者の支援活動を行うことを目的として、複合地区のガバナー協議会議長や現国際理事らが東京に集まった。

その会議に於いて日本ライオンズとして組織的に被災地を支援するための枠組みが協議され、東京五反田にあるライオンズクラブ国際協会日本事務所に「日本ライオンズ東日本大震災支援対策本部」を開設、同時に東京日本橋の330複合地区事務局内に「東日本大震災緊急支援対策本部」が設置される事が決定。さらに、主たる被災地である332・333複合地区内にも連絡事務所及び支援物資の受け入れ先などが設けられた。

330複合地区が対策本部の中心に

この支援対策本部には330複合地区ガバナー協議会議長が選任され、330-A・B・Cの各地区メンバーで構成される330複合地区緊急対策委員会副委員長が副本部長となった。

3月17日(木)に開催された330複合地区ガバナー協議会議に於いて330複合地区での支援対策本部設置が決定し、

3月21日(月)の8複合議長連絡会議ののち、各地区から14名のサポートチームメンバーが選出された。

緊急支援対策本部には対策本部長、副本部長らが交代制で連日待機し、サポートメンバー達が毎日集まって、被災地からの要望を受けて支援物資の調達や運搬の手配を行っている。

支援物資の手配や調達に必要な経費は、ライオンズクラブ国際協会日本事務所に申請すればLCIFの資金が使われることになったようだ。尚、ライオンズクラブ国際協会ではいち早く、日本ライオンズに対して1億円の緊急援助金を決定しており、すでに333複合地区には4千万円、332複合地区には2千万円が支給されている。



東日本大震災 330-A地区 支援活動レポート

義援金 募金活動

震災以降40件以上の街頭募金を実施

被災地に物資を運ぶ支援と並行して、3月14日午前10時から都営新宿線船堀駅前で行われた江戸川南LCの活動を皮切りに330-A地区内各地で活発な街頭募金活動が展開され、活動件数は40件以上にも上り、支援への大きな成果を上げている。

3月24日(木)に渋谷駅前でワンハンドレッドLCが行った募金活動では、ギタリストのL村治佳織ほかライオンズクラブメンバーに加えて、歌舞伎役者の片岡愛之助様、片岡孝太郎様、角界より把瑠都関をはじめ大勢の力士の方々も参加し、5時間で約190万円もの義援金が集まった。

災害被災地への関心が高い中、少しでも被災者の助けになればとの思いから、多くの方が率先して募金に協力頂き、5千円札や1万円札を差し出す募金者が目立った事が、各地で多額の義援金が集まった要因と考えられる。

また、「がんばって下さい」「被災者の方々の為に使って下さい」と声を掛けてくる人も多く、「街頭募金活動を通じて、ライオンズクラブが奉仕団体として信頼されていると改めて感じた」と活動に参加したメンバーは感想を語った。

街頭募金活動一覧 ※第57回年次大会プログラム掲載資料

日付	主催	場所	募金額
3月14日(水)	キャピネット事務所	船堀駅前ライオンズ会館前	228,371円
3月15日(木)	東京江戸川南LC	船堀駅前 船堀駅前	701,560円
3月16日(金)	東京三浦LC	船堀駅前 ベトナムアンチキ	3,290,177円
3月18日(日)~20日(火)	東京船橋LC	船堀駅前	1,074,482円
3月17日(金)	東京三浦LC	三浦駅前	1,138,712円
3月18日(土)	東京八王子東区LC	八王子駅北口駅前及び南口センター	54,247円
3月18日(土)	東京東区LC	東区駅前	269,000円
3月18日(土) 特別(土)	東京東区LC	東区駅前	694,148円
3月19日(日)	東京古習志LC	古習志駅前	691,519円
3月19日(日)	東京八王子東区LC	八王子駅東口	211,149円
3月19日(日)	東京東区LC	千代田 有楽町駅前	708,215円
3月19日(日)	東京王子中央LC	王子駅前 小岩駅前	396,835円
3月19日(日)	東京江戸川南LC	東京・小岩西口 西船橋駅前	2,244,669円
3月19日(日)	79R-32 合同募金活動	光が丘駅前	484,178円
3月20日(日)	東京八王子中央LC	八王子駅北口東急スクエア前	107,361円
3月20日(日)	3R22合同・東京セレクトLC	船橋駅前広場 および 中央公園	344,305円
3月20日(日)	東京東区LC	JRF有楽町	814,862円
3月20日(日) 特別(日)	東京東区LC	有楽町駅前	662,867円
3月20日(日)	東京船橋LC	JRF有楽町	467,800円
3月24日(木)	東京江戸川南LC	JRF有楽町・小岩駅前	678,713円
3月24日(木)	東京ワンハンドレッドLC	JRF有楽町	1,894,672円
3月24日(木) 特別(木)	東京船橋LC	船橋駅前	未報告
3月26日(土)	10R合同	船橋駅前2丁目東口駅前	843,238円
3月26日(土)	東京ウエストLC	船橋 東口	161,144円
3月26日(土)	29R合同	船橋駅前 交差点	1,194,822円
3月27日(日)	東京江戸川南LC	船橋駅前 船橋駅前・東口	246,243円
3月27日(日)	東京船橋LC	JRF有楽町 船橋駅前 船橋駅前	178,347円
3月28日(日) 特別(日)	東京船橋LC	西船橋駅前船橋駅前東口駅前	未報告
3月28日(日)	東京船橋LC	JRF有楽町	112,319円
3月28日(日)	東京八王子東区LC	JRF有楽町八王子駅前	223,827円
3月28日(日)	東京江戸川南LC	船橋駅前 船橋駅前	67,206円
4月2日(土)	3R32合同	船橋駅前	269,782円
4月2日(土)	1R合同	船橋駅前交差点	52,042円
4月2日(土)	東京ウエストLC	船橋駅前 船橋駅前	未報告
4月2日(土)	東京東区(船橋)LC	船橋駅前 船橋駅前	135,800円
4月2日(土)	東京東区LC	船橋駅前 船橋駅前	約27万円
4月2日(土)	東京GAIALC	船橋駅前 船橋駅前	158,800円
4月5日(水)	東京みやぎLC	船橋駅前	111,856円
4月8日(土)	3R12-22合同	船橋駅前	282,387円
4月9日(日)	東京船橋LC	船橋駅前	未報告
4月9日(日)	東京江戸川南LC	船橋駅前 船橋駅前・北口	未報告



大石誠 地区ガバナーエレクト インタビュー

PR・情報委員会 早速ですが、ガバナー就任を間近に控えて現在のお気持ちをお聞かせ下さい。

L大石 はじめに、この度の東日本大震災により、被害に遭われた皆様に心よりお見舞い申し上げますと共に、東日本大震災への救援と1日でも早く復興するために最大限の支援を行うことがライオンズクラブとしての最優先課題だと考えています。

そのためには、地区年次大会の各分科会シンポジウムに於いて協議された今後の震災対応についての意見を集約し、活動の方向性を検討すること。そしてまた、全日本8複合地区の支援体制との連携を図りながら、中長期的な復興支援のあり方を早急に構築しなくてはなりません。

また、全国のライオンズクラブは今回の大災害への支援という一つのテーマに対して、クラブ、地区、或いは有志メンバーなど様々な単位で対策を考え積極的な奉仕活動を展開していますが、全国のライオンズが一丸となって取り組むことで、大きな奉仕の力となり、我々の体制もさらに強化されるのではないのでしょうか。

PR・情報委員会 入会のきっかけをお聞かせ下さい。

L大石 青年会議所を卒業した直後、以前から尊敬していたライオンズメンバーにお誘いを受けて1985年に入会しました。

PR・情報委員会 入会当時のライオンズの印象は如何でしたか？

L大石 数寄屋橋LCには当時60名前後のメンバーが在籍していましたが、銀座の老舗有名店オーナーなど錚々たるメンバーの存在から、ライオンズクラブの高いステイタスを感じました。

PR・情報委員会 ライオンズに深く関わろうと思った動機は？

L大石 ライオンズクラブには社会的な地位と人格を兼ね備えた魅力的なメンバーとの出会いがあります。私は入会間もない頃に日本でもトップクラスの和風建築会社、銀座を代表するファッションブランド、関東圏に店舗を展開する有名服飾店と、それぞれの業界でリーダーシップを発揮しながら活躍しておられるクラブ内の3名のメンバーから刺激を受けました。その3名の共通点は仕事が好きで何事にもポジティブで、常に奢らず感謝を忘れない事でした。また、多忙な立場であるにも関わらずライオンズクラブで奉仕に取り組む姿勢に心から尊敬の念を覚え、大いに啓発を受けました。そんな魅力的なメンバーとのふれあいが、私がこれまでライオンズクラブを続けてきた原動力です。

PR・情報委員会 メンバーとの交流を通じて思い出深い出来事はありますか？

L大石 3人兄弟のうち、2人がガバナー経験者というメンバーが私のクラブにいらっしゃいました。そのメンバーはZCまで務められましたが、ライオンズでの地区役員をあえて固辞されながらも、クラブ内では各メンバーの様々な意見を1点に集約し、クラブ運営を最適な方向に導くことのできる知性、人柄、人望を持ち合わせたメンバーでした。残念ながらクラブ記念事業の執行委員長の時にご逝去されましたが、後になってクラブに多額の寄付を遺されたことを知り、改めて自分自身の社会奉仕への姿勢を問われたように思える印象的な出来事でした。

PR・情報委員会 ライオンズクラブで取り組むべき中長期的な課題についてお答え頂けますか？

L大石 私たちは意義有るアクティビティを展開し、永年にわたり社会に貢献してきたにも関わらず、未だにマンション会社、野球チーム、富裕層の団体などと誤認されるのは残念なことです。

ライオンズクラブの奉仕が社会に認められるにはどうするべきかという視点が、より求められていると感じます。そのための一つの取り組みとして、法人化があると思っています。

社会から認められた法人となることで、社会と共にある団体であることが広く周知され、メンバーの誇りに繋がるのではないのでしょうか。この改革は、言うは易く行うは難しの言葉のように大変難しいことですが、ライオンズの高揚と、これからの日本のLCの発展を考えると、決して避けることの出来ない大事なことです。メンバーの皆さんと英知を結集して実現をしたいと考えています。

PR・情報委員会 最後にガバナーとしての取り組みについて簡単にお聞かせ下さい。

L大石 私はライオンズ活動の原点であるクラブの活性化、メンバーの維持と増強、エクステンション、青少年の健全育成、環境問題、そしてLC法人化について、クラブ会長を始めメンバーの皆様と連携して地区の発展の為に努力をして参ります。

日本にライオンズが設立されて60年になり、我々を取り巻く環境も価値観も大きく変化しています。これからは、社会でのライオンズクラブの認知度を高めることが重要であると考えておりますので、メンバー各位のご理解と絶大なご支援とご協力を心よりお願い申し上げます。

ライオンズクラブのPRを考える



- ディスカッション参加メンバー
- L大石 誠 地区ガバナーエレクト
 - L阿久津 隆文 次期第1副地区ガバナー
 - L梶原 正和 MD330 緊急援助委員会 副委員長
 - L向井 忠義 12R リジョンチェアパーソン
 - L佐原 幸雄 IT委員会 委員長
 - L宇埜 正純 元PR・情報委員会 副委員長
 - L桂 太郎 世田谷LC 会長
 - L山本 康弘 PR・情報委員会 委員長
 - L柴田 誠 PR・情報委員会 副委員長
 - L吉澤 隆志 PR・情報委員会 副委員長
 - L小森 康一 PR・情報委員会 委員

1917年米国シカゴで産声をあげ、日本では1952年東京LCの結成以来、ライオンズクラブはウィ・サーヴの精神のもとで、グローバルな奉仕活動を積極的に展開してきた。

しかしながら、ライオンズの知名度は活動の歴史に比例して社会に浸透してきたとは言い難く、社会一般からのライオンズクラブの印象と活動実態との認識の差は依然として大きい上、素晴らしい実績と歴史を有する世界最大の奉仕団体にも関わらず、会員減少やクラブ活性化等の課題を抱えている。

そこでPR・情報委員会では、今期最後の地区ニュース発行にあたり、PRの現状の問題点と進むべき方向性を探るべく、地区のキーマンにお集まり頂き、ライオンズクラブの外部へのPRについて論議する場を設営した。



L柴田 PR・情報委員会の活動の現状はメンバー向けの内向きな情報発信の傾向が強いが、外部への発信の必要性を求める声が委員会内では強い。企業が社内と社外向けに情報を使い分けているように、ライオンズはPRへの意識を変えなければならないと思う。

L向井 ITとPR活動を同じ委員会の中で担当すれば、双方のシナジーが生まれ効率的だ。外部にはホームページ（以下HP）でアピールすべきだが、現状のHPではメンバー向けなのか、外部への発信ソースなのか不明確だ。一般の人が閲覧してもライオンズの活動を楽しく理解できるHPを作るべきであり、そのためには予算を割いてプロにHP作成を依頼した方がよい。

L佐原 メンバー内部と、外部ではそれぞれ必要な情報が違う。現状の地区ニュースやHPは基本的にメンバーへの情報であり、これを外部に向けての情報として併用はできない。そもそも、新しい時代のライオンズに生まれ変わらなければならない時であるにも関わらず、ライオンズのイメージがレトロである事が問題だ。今後のPRにはイメージ転換のための戦略が必要ではないか。

L桂 これまでのライオンズには戦略的に外部にPRするという概念がなかった上に、現在急速に進化する情報・コミュニケーションツールの時代に完全に立ち後れている。現代は3年変化のない物に対して、若者は全く興味を示さない時代だという事を認識するべきだ。ライオンズがレトロに感じるのは、時代に合わせた変化を内部が感じないからであり、外部への発信のためには時代を意識したセンスとスピード感がポイントだと思う。



L小森 PRのやり方を変えるのではなく、アクティビティを変えるべきだ。様々な情報ツールを活用してPRするという方法よりも、例えば今年話題になったタイガーマスクのように、奉仕を受けた相手の心に残るような活動が必要だ。我々の奉仕の気持ちが本物ならば、世間の関心も自ずとライオンズクラブに集まってくると思うし、口コミに繋がるだろう。



L阿久津 どんなPRも1回で終わると意味がない。例えば同じ日に各地でアクティビティを行えば、外部の方が何度もライオンズと接することになり、我々に興味を向けるきっかけとなる。要は点と点（各地域）の活動を、線（統一）から面にすることが大事だ。また、街頭募金の際に活動に興味をもった人に対してカードを渡して、後でHPを見て下さいと伝えと、それだけで十分な宣伝効果があるし、私はリクルート用に地区ニュースを活用している。それに、写真中心のシンプルで若い人にも解りやすい冊子は、お金を掛けなくても手作りで作ることは可能だ。

L宇埜 会員減少を防ぐために単に会費を下げるのは理念が無いのと同様に、「ライオンズとは何か？」という根幹を見据えた上でPRを議論する視点を忘れてはならない。HPを開設したクラブも増えてきたが、デザインが単調で印象に残るような情報を発信しているクラブは殆ど無い。アクティビティを全部掲載するのではなく、「これだ」と思うコンテンツに絞って、写真や内容を充実させ、オシャレで目を引くデザインにした方がよいだろう。リアルタイムとファッション性、この二つがPRの重要な要素だ。



L向井 募金は2回目以降は集まらないと言うが、例えば会場に大型のモニターを持ち込んで募金の収益がどのように使われたのかわかる映像を流してみる。これは2回目以降だからこそできるし、工夫次第でアクティビティの効果は全く違ってくるほどPRとは重要だ。PRはアイデアであり、アイデアを具現化することで、組織のマンネリ化も防ぐことができる。ライオンズクラブの持つ伝統と豊富なコンテンツが、かえって新しいアイデアを生み出す障害となっているようにさえ感じている。

L梶原 面白いアイデアが出て、予算が無いが故に諦めざるを得なかったことも多々あった。一回でも予算を投じて核となる環境を再構築すれば、多くのメンバーがPRの効果を実感できるだろう。また、新しいメンバーが入会して活性化しているクラブはPRにも力を入れている。つまりPRと会員増強を同時に考えた方が自然だ。これからのPRを考えるには若手メンバーが集い、若い人に対してのPRを検討する環境も必要ではないか。

L柴田 他の地区の有意義な情報であっても、地区ニュースでは地区内の情報が優先される。また、奉仕活動の翌日にHPに情報を掲載しても、メンバーが知らないのは残念だ。キャビネットに於ける地区のPR活動とは、その期のガバナーの諮問内容に大きく左右されるが、他地区や他の委員会との横断的な連携等、効果的なPRのための柔軟で革新的な諮問内容を望む。



L宇埜 作る側が面白く無ければ、読み手も面白くない。今迄のパターンを一度捨てて、外部のアイデアを取り入れてみるのも意味があると思う。また、折角良い奉仕活動をして、ライオンズクラブは法人化されていないので新聞等もなかなか取り上げてくれないという現実メンバーも認識しておくべきだ。

L大石 ライオンズは各クラブが様々な活動を展開しているが、330-A地区発で全国に広がった薬物乱用防止キャンペーンを柱に運動を展開することによって、我々が社会にもっと認知されるきっかけになるだろう。また、ライオンズの奉仕活動に、やりがいがあり、受ける側に本当に感謝され、そして、社会がどう評価するのか？の3点を考えて活動しなければならない。そして、未だにマンション業者と誤認される状況から抜け出すためにも法人化を検討していく。このように、来期は社会を意識して行動することが柱であり、外部へのPRのあり方も重要な要素だ。



L佐原 本来、ライオンズクラブのPR・情報活動とはワンイヤー制に左右されるべきものではなく、一貫した取り組みが求められる。従って、期がスタートしてから委員会に諮問が降るされるのでは遅い。次期役員とPR・情報担当が事前に諮問事項の打ち合わせを行うべきだ。

L吉澤 ライオンズの活動はクラブが基本であるが、ライオンズが時代から立ち後れていると言われるのは、クラブ運営の硬直化にある。例えば、HPの立ち上げにはそれなりの手間が掛かるので、手軽なPR手段としてブログを活用すべきだ。各クラブの活動を簡単に、しかも無料で発信できる有効なツールだ。



L梶原 各クラブが地域に密着した奉仕活動を行い、地域の人に喜ばれ、ライオンズクラブへの理解を得ることが、会員増強への一番の近道であり最大のPR活動だ。そして、活動と共にPRを行う上で、募金箱のステッカーやキャッチコピー等、外部向け情報ツールの統一化を徹底することは非常に重要だ。

L小森 各クラブには必ず継続アクティビティがあり、それによって数々の団体や地域と繋がりを持つことができる。一方、キャビネット運営では年度毎に方向性が大きく変わる印象だ。地区という大きい枠組みで外部へのPRを考えるとすれば、本質的で継続性のあるテーマを明確化した上で、そのテーマを軸に、活動を展開するべきではないか。



L山本 ライオンズは素晴らしい団体だが、私は魅力を実感する迄に数年を要した。このタイムラグを解消すれば外部へのPRのみならず、組織は活性化できる。例えば小学生が読んでライオンズに入会したくなるようなメンバーの感動的体験をまとめた小冊子があれば有意義だと感じている。これからのPRは最新ツールの戦略的活用と同時に、ライオンズの本質である「奉仕」の魅力や感動をわかりやすく伝えるべきだろう。

人は自らの経験を当たり前と捉えがちだが、ライオンズを通した奉仕体験は、受け手には価値ある宝石となり得る。もっと外部に発信すべきだと思うが、現状では各々のクラブやメンバーの中に眠っている。既にライオンズの中にある宝石を効率的に集めて、新たに磨き上げて発信することもPRの大切な役割だと思う。

Member Close up

L小坂 哲瑯 (日比谷松本楼 代表取締役・日比谷LC所属)

● 孫文と梅屋庄吉・・・

私の亡妻の祖父である梅屋庄吉は、孫文が初めて出会った日本人です。

1895年、庄吉27歳、孫文29歳の時に庄吉が経営する香港の写真館で交流が始まり、当時西欧列強諸国の圧力に苦しむアジア全体は、独立自尊の道を確保すべきと意気投合し「君は兵を挙げよ、我は財をもって支援す」との盟約を結びました。

帰国後の梅屋は日本活動写真株式会社(日活)の創設者の一人として創成期の日本の映画界を牽引し、事業で大きな成功を収める一方で、孫文のために物心両面を挙げて支援を行い、「辛亥革命」の際には私財を投じて援助を繰り返し、孫文の死後も日中友好に懸命の努力を重ねました。

日本亡命中の孫文は頻繁に松本楼を訪れ、1915年には梅屋邸で宋慶齢と結婚披露宴を行いました。宋慶齢が梅屋邸で暇さえあれば弾いていた孫文夫人ゆかりのピアノが松本楼の1階に展示されています。

梅屋庄吉と孫文に始まり、ライオンズが受け継いだ日中をつなぐ奉仕が、成果をあげたことはこの上ない喜びでした。

そして幸いにも、私がガバナーを務めた2000-2001年度ガバナー・アクティビティとして、中国寧夏回族自治区への奉仕が満場一致で採択されたのです。

● ライオンズ精神と松本楼・・・

日比谷公園の開園と同時に開業した松本楼は創業108年を迎え、私は父と共に当店の仕事を始めて約60年の月日が経ちましたが、この店は関東大震災で崩壊、昭和の大恐慌、第二次大戦後の米軍の接収、1971年11月の暴徒による放火焼失と4度の大きな危機に遭遇してきました。

その都度、多くの方々の温かいご支援のお蔭で乗り越えることができたことへの感謝の念は語り尽くせません。

日比谷松本楼では放火から2年後に店舗が再建された1973年以降、毎年9月25日に10円に志の金額を上乗せして支払って頂く「10円カレー」を提供し、売上金は当方の拠出金と併せて慈善団体に全額寄付しています。再建当時は莫大な借金を抱えて胸中は不安でいっぱいでしたが、ライオンズクラブに所属して奉仕の精神を学び、社会福祉に貢献することの大切さを身をもって知っていたからこそ、思いついたアイデアに他なりません。

今や「10円カレーチャリティー」は、私たちの志に共感頂いた方々が前日の朝から行列を作るほど有名になり、日比谷公園の中にある松本楼の存在も広く知って頂けるようになったのは、ライオンズ精神のお蔭だと思っています。

● アクティビティのやりがい・・・

日比谷松本楼の二代目である父の元で、私は支店を出店するために日本全国を駆けまわっていました。一時はかなり店舗を拡大して多忙な時もありましたが、そんな時も例会には極力出席していましたし、アクティビティにも積極的に参加しました。

支援先に伺うと、活況を呈する華やかな日本経済の影で、大変なご苦勞をされている人々が数多くいらっしゃいました。

ライオンズ活動を通じて、まだまだ未成熟な社会福祉の実態を見るにつけ、ライオンズクラブの存在意義をしみじみと感じましたし、我々のアクティビティを本当に喜んで頂けたことがやりがいになりました。

早速、視察に同行した菅原ガバナーは1996年度ガバナー方針の一大目標として中国寧夏回族自治区への支援を提案され、地区内ほとんどの賛同を得てアクティビティが始動。鉄筋コンクリート4階建の学校を3校建設し、更に4年間の奨学金も送ることが出来ました。そして、2000年4月に現地を再訪した折には我々が建設した学校を中心に集落が発展し、「街おこし」に寄与している実態に目を見張りました。



日本第一号のクラブを訪問

2011年2月24日(木)、PR情報委員会は委員長他2名が来年60周年を迎える東京LCの例会を訪問した。

当日はL池崎元地区ガバナーの招きで、子クラブの渋谷LCメンバー他、多数のライオンズクラブメンバーに加えて、日本アイバンク協会の松栄達朗事務局長らも出席した。

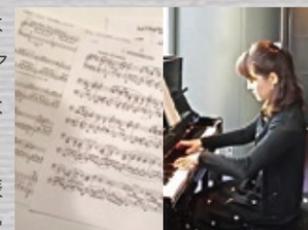
はじめに司会進行役のL加藤光晴幹事が1408回目の例会開会を宣言し、開会のゴングの後、L追原篤男会長は多くのゲスト訪問に対して歓迎と感謝を表明した後、東京LC例会場である帝国ホテルに於いて2月5日(土)に開催された市川LCの50周年記念例会について、「斬新な企画の記念例会に新鮮さを感じ、ライオンズクラブの将来にも希望を感じた」と子クラブ記念例会での感想を報告した。会長挨拶の後、ゲストメンバー数名からの訪問スピーチを終えて、会食の時間となった。



美しいピアノの音色と共に・・・

ここからが、東京LCならではの企画だが、毎回例会ではピアノの生演奏を聞きながら静かな会食が始まる。

ピアノ演奏者の相川陽子様(京都芸術祭最優秀協演賞



受賞。二期会、日本音楽家協会、小澤征爾音楽塾、小澤征爾指揮セミナーピアニスト、在京オーケストラ鍵盤楽器奏者等を務める)から本日の演奏曲が紹介され「シューベルト:セレナード」「ブラームス:間奏曲」「メンデルスゾーン:歌の翼に」の3曲が演奏される中、参加者一同は、さすがは帝国ホテルと思わせる食事と空間を心から堪能した。



元ガバナーの日

東京LCでは例会の恒例行事として毎年「元ガバナーの日」を開催しており、当日はL池崎道男(1994-95年330-A地区ガバナー)よりメンバースピーチが行われた。

L池崎道男は、1951年秋にシカゴの国際協会に於いてフィリピンのゴンザレス国際理事が、戦争により緊張関係にあった日本と世界の友好関係を復活させる為に、日本にLCを結成することを提案し承認された経緯や、東京LCの歴史、日本ライオンズの生い立ち、草創期のころの正にライオンと呼ばれるに相応しい先人達のエピソードの数々を紹介した。



伝統と品格の継承

続いて、L追原篤男会長より日本アイバンク協会松栄達朗事務局長に支援金並びに障害者援助金が手渡された後、「テールツイスターの活躍」の時間となった。

テールツイスターL坂下賢三は、同日開催された党首会談に因んで、戦前戦後を通じて在任期間が長かった歴代総理を順番に紹介し、例会のムードを盛り上げた。尚、次回テールツイスタータイムは短命だった総理大臣について取り上げると予告された。

例会の最後に、L加藤光晴幹事より次回例会は入会希望者、入会予定者を約30名招いた特別例会であるとの案内があったが、後日報告によると、多数のビジターが参加した特別例会はL歌田勝弘のメンバースピーチ等で大変な盛会となったようだ。

例会の時間中、発表者に対して誰一人茶化したり、野次るメンバーはいらなく、東京LCならではの歴史と伝統を強く感じると同時に、アイデアに富んだ例会運営を体験して、東京LCにはライオンズクラブの模範となるべき自覚が受け継がれていることに感心し、メンバーとして誇らしく思った。

読者も是非東京LCの例会に参加してみてもは如何だろうか。



日比谷 松本楼

長期在籍メンバーに学ぶ

クラブ内にボスは作らない。

千代田LC L長谷川 徳次 (89歳)



30代で入会した当時は入会審査が非常に厳しい上、クラブには皇族関係者など格式の高いメンバーも多く、若手の意見はなかなか取り合ってもらえませんでした。

私が会長に就任した時、クラブ内にボスは作らない！というスローガンを掲げ、今会員を増やさなければ40年後に誰もいなくなってしまうという強い危機感のもと、会員増強を目指しました。それでも依然として入会審査は厳しく、先輩メンバーにとって私や若いメンバーは反乱軍ととらえられながらも奮闘した結果、新たに17人が入会して、地区で金賞を受賞しました。

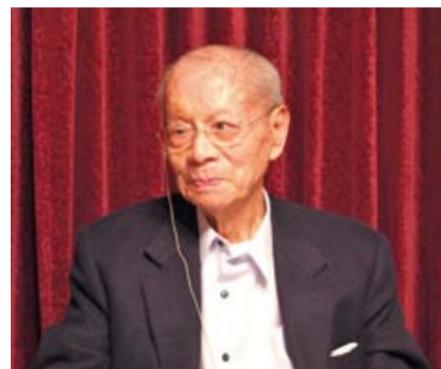
高齢になってくると、学友や戦友に先立たれてしまい、今のお付き合いはほとんどライオンズのメンバーです。もしもライオンズに入っていなかったら仲間と呼べる人が今では誰もいなかったかもしれません。

私にとって、家族と仕事以外で繋がっているのはライオンズクラブだけであり、千代田LCとは運命共同体です。

現在のクラブはボスがいませんし、上下関係が無いのでみんなが協力し合える素晴らしい環境です。ボスを作らないという信念は、ボスのいる不自由な環境を経験したからこそ言える結論です。

エネルギーな例会を

千代田LC L東野 公一 (94歳)



私は若い頃に合気道を習い始めて、段位が9段となった現在も毎朝欠かさず約30分間「氣」の体操を続けていますが、合気道を通じて人生の真理を学びました。

出口が無ければ入口は存在しないのと同様に、物事には道理が有り流れがあって、その流れに逆らってはいけません。

そして、「氣」が充実していれば病気にかかることはありませんし、エネルギーな人生を過ごすことが可能になります。

会社を経営しながら、1961年から今日までライオンズクラブを続けることができたのも「氣」を勉強したお陰なのです。

最近のクラブ例会で感じる事は、もっとアイデアを取り入れて活気のある明るい例会運営が必要だという事です。

私が若かった頃の例会では、一人ひとりがもっと元気で、話題も多岐に渡り吸収できることがたくさんありました。

その伝統を受け継いで行くべきという強い思いがありますので、メンバーの手本となるように例会にも全力で頑張っています。

例会はライオンズ活動の基本ですから、メンバーはもっと知恵を出し合い、自分自身の意志を貫いて、エネルギーな例会運営と奉仕活動を志して欲しいですね。

まだまだがんばります！

荒川LC L鳥海 隆 (88歳)



1975年7月に東京荒川LCに入会して以来、今年でライオン歴は36年目を迎えました。その間にZC、RC、年次大会委員長等の地区役員も拝命し、ライオンズを通じて貴重な経験をさせて頂きました。

最も印象に残っている出来事と言えば、やはり第54回地区年次大会で常陸宮殿下を御出迎えさせて頂いたことです。

大会委員長として東京プリンスホテルの玄関まで御出迎えし、失礼の無いように非常に緊張する中、貴賓室まで当時の飯田善彦ガバナーとご案内いただきましたが、生涯忘れられない得難い体験となりました。

また、当クラブから飯田善彦ガバナーが選出された時も、まるで自分の事のようにうれしかったですね。

36年を振り返ってみますと、入会したばかりの頃は戸惑いもあって退会しようかと考えた事も正直ありましたが、例会に出席する度にメンバーから励まされ、勇気を頂いたことに感謝しています。

だからライオンズクラブの魅力をもっと知ってもらいたいと思い、入会以来20人以上スポンサーをしてきました。

そのメンバー達に対しても私は責任があります。まだまだがんばりますよ！

Topics & Club Activity

3月6日 第46回 善行少年少女表彰式 江戸川LC

多発する青少年非行は深刻な社会問題だが、一方で、善行を行い、人々に共感と勇気を与えている青少年も少なくない。江戸川LCでは青少年健全育成の一環として、地域社会で善い行いをしている少年少女に対し、その行動を誉め讃え、希望と勇気を与え、さらに自主性を発揮して良識ある社会人に成長するよう一層の精進を願い、毎年表彰式を開催している。当日は江戸川区長、山浦国際理事、河合ガバナー他多数の来賓が見守る中で、青少年活動、環境美化、人命救助、警察・消防への協力の各分野で215名が表彰された。



3月29日 豊島区長より感謝状贈呈 豊島LC

3月11日のフォーラム&チャリティコンサート開催にあたり、330-A地区は豊島区内在住の障害者の皆様にチケットを贈呈した。この件を受けて、区の障害者福祉行政へ大いに寄与したと評価され、3月29日豊島区役所区長室において高野豊島区長より河合ガバナーに対して感謝状の贈呈が行われた。河合ガバナーは3月11日の地震発生以降の池袋西口公園および東京芸術劇場での避難者への対応について説明。高野区長は、交流が深い宮城県被災地について、今後さらに情報交換を密接に行いながら支援していくと表明した。



4月2日 カーブミラー清掃活動 吉祥寺LC

吉祥寺LCでは地域奉仕活動の一環として、2007年度より、吉祥寺駅周辺の住宅街地区に設置されているカーブミラー約40ヶ所の点検と清掃を行っている。武蔵野市が作成したカーブミラー設置地図を片手に、メンバーが破損状況をチェックしながらミラー部分を磨いて歩き、点検の結果を後日、武蔵野市に報告する。新年度を迎えた青少年や社会人の皆様の通勤、通学時の安全を心から願い、気持ちよく過ごして頂きたいとの思いから、4月にこのアクティビティを実施している。



4月20日 中古眼鏡の梱包 早稲田LC

以前から中古眼鏡の収集にご協力をいただいている眼鏡のHOYA様から、「関東地方の各支店から、中古眼鏡が集まった」との連絡が入り、4月20日、立川の倉庫にお伺いして、オーストリアのライオンズクラブ国際協会の眼鏡リペアセンターへ発送すべく、約7,000個の梱包作業を行った。尚、集まった老眼鏡は東日本大震災の被災地に向けて発送したかったのだが、諸般の事情により発送が難しいらしく、今回は全てオーストリアに送付した。是非日本にもリペアセンターの設立を考えてもらいたい。



4月17・24日 茨城県産農産物の無料頒布 3R3Z合同

「茨城県産農産物の無料頒布会」が青山表参道交差点・秋葉神社前で3Zメンバーの他、青山表参道商店会、青山表参道町会、赤坂消防団第3分団の皆様の協力を得て実施された。神宮LC会長後藤ほかの手配で、ゾーン内5クラブの協力により準備した野菜、米を袋詰めにして茨城県の「農産物等の安全性について」のチラシとともに2日間で約2,000個以上を用意し、大変好評のうちに短時間ですべての野菜の無料頒布が終了した。また、配布テーブルの横に置いた募金箱にも多数の方々から寄付を頂き、有意義なアクティビティとなった。



主要行事日程表

- 2011年 5月28日(土) ~ 29日(日) 第12回 東京都障害者スポーツ大会 (駒沢オリンピック公園)
※第57回年次大会記念アクティビティ
- 2011年 5月30日(月) 次期三役セミナー (憲政記念館)
- 2011年 6月13日(月) 第4回 キャビネット会議 (京王プラザホテル)
会 議 15:00 ~ 18:00 懇親会 18:30 ~ 20:30
※ 元ガバナー・キャビネット構成員・委員会副委員長・委員・複合地区役員
- 2011年 7月4日(月) ~ 7月8日(金) 第94回 国際大会 (アメリカ ワシントン州シアトル)

7月4日 (月)

18:30 ~ 21:30 ガバナーエレクト・セミナー祝賀晩餐会

7月5日 (火)

10:00 ~ インターナショナル・パレード
14:30 ~ 16:30 会員キー賞アイスクリームを囲んでの集い
15:30 ~ 17:00 各種セミナー
19:30 ~ 21:30 河合DGと大石DGエレクトを囲む会
18:30 ~ 20:00 インターナショナル・ショー

7月6日 (水)

09:00 ~ 12:00 初日総会(開会式)※国際会長講演他
13:00 ~ 15:00 メルビン・ジョーンズ・フェロー昼食会
14:00 ~ 17:00 各種セミナー
17:30 ~ 日本ライオンズ代議員会
17:30 ~ 19:00 ジャパンレセプション
19:30 ~ 22:00 国際青少年音楽コンクール

7月7日 (木)

09:00 ~ 11:30 二日目総会・人道主義大賞授与他
13:00 ~ 17:00 各種セミナー
20:00 ~ 22:00 各種晩餐会(元国際会長・元国際理事他)
※山浦晟暉国際理事杯ゴルフコンペ(予定)

7月8日 (金)

07:00 ~ 10:00 投票
09:30 ~ 13:00 最終日総会(閉会式)
※コンドリザー・ライス氏基調講演他
19:00 ~ 21:00 国際役員レセプション
※ 主要会場
□ 大会本部ホテル ウェスティン・シアトル
□ 開会式場・閉会式場 キーアリーナ
□ 大会サービスセンター・投票 ワシントン州コンベンションセンター
□ ジャパンレセプション フェアモント・オリンピック・ホテル

- 2011年 11月24日(木) ~ 11月27日(日) 第50回 東洋東南アジアフォーラム
(フィリピン・マニラ首都圏パサイ市)



表紙作者 K.ジャンス (イギリス/口で描く) 作品名 「読書する女性」

人生前半生で既に財務顧問として独立し、また株式仲買人の職業で成功を遂げていた。大のスポーツ好きだったが、34才の時に自動車事故にあい脊椎を損傷、上下肢マヒとなり、2年後にやっと退院した。幸い二人の口で描く画家、ウェルズ氏とrapper夫人に会う機会に恵まれ、助言と励ましを受け、口で描き始めた。四年間の「自由参加の開かれた美術学校」講座を修了した。作風は印象派的。

2010
|
2011

地区ニュース 編集後記

地区ニュース6号発行をもって、今期PR・情報委員会の主たる役割を終えることが出来ました。地区ニュース制作にあたり、情報提供並びに取材にご協力頂いた皆様方に心より深く御礼申し上げますと共に、一部の記事に誤植等の不手際がありました事を、この場をお借りして、改めまして深くお詫び申し上げます。

委員会の独自取材による地区ニュース制作を通じて、数々の気づきを得ましたが、とりわけ、ライオンズでは誰もが知っているような情報を改めて調べたり、以前から面識のあるメンバーを取材すると思わぬ発見や啓発を受けることが度々ありました。

この体験は、ライオンズの魅力を再認識すると同時に、価値ある

情報を見過ごしてきた事を思い知る機会でもありました。

そのような思いから、チャーターナイト、LCIF、日本赤十字等の聞き慣れたコンテンツを掘り下げ、メンバーに焦点をあてた記事を掲載して参りました。今期地区ニュースが皆様のより豊かなライオンズライフに少しでもお役に立てたとしたら幸いに思います。

PR・情報委員会 委員長 L山本康弘



ライオンズクラブ国際協会
330-A地区

地区ニュース 第6号
(2011 For the future)

発行日 2011年5月25日

発行 PR・情報委員会

PR・情報委員会

委員長	山本 康弘			
副委員長	柴田 誠	吉澤 隆志		
	鈴木 郁朗	奥山 貞夫		
委員	芳澤 幸男	木下 榮弘	西部 重男	
	小森 康一	山口 聖之	笠原伸太郎	
	新渡戸智純	谷澤 進一		

ライオンズクラブ国際協会

330-A地区 キャビネット事務局

〒160-0023

東京都新宿区西新宿7-10-17

新宿ダイカンプラザ B館 2F

TEL 03-5330-3330 FAX 03-5330-3370

E-mail cab@lions330-a.org